

主 題：古着を着ないでください

聖書箇所：エペソ人への手紙 4章17-24節

私たちはイエス・キリストによって救われて信仰生活を歩んでいますが、主にあって成長するべきなのに、そうできないのはなぜなのでしょう？主によってもう新しくされたのに、なぜ変わらないのでしょうか？救われる前にもっていた困難が今も続いていると感じていませんか？

それは古い自分をもっているから、罪に満ちた着物を着つづけているからだ、パウロは言います。神に変えられた新しい性質をもって歩んでいくように、救われた者として新しい歩みをするために、パウロは私たちに命令を与えています。今日と来週このエペソ 4：17-24 から見てゆきましょう。

☆新しい歩みをするためのパウロの命令

エペソ人への手紙は初めの 1~3 章は教理的なことを教えています。神の真理です。神によって救われ、神によって和解を得、そして、神の家族となったのです。4~6 章は実践です。4：1 にあるとおり、「召しにふさわしく歩みなさい」と勧めています。一致することの必要です。互いの賜物をもって仕え合いなさいと。そして、この 17 節から、もう一度、召しにふさわしい歩みをするようにと訴えるのです。

1. 救われた者として、このように歩んではいけない。 17-19 節

私たちは今までどのように歩んできたのでしょうか。17 節の初めに「そこで私は、主にあって言明し、おごそかに勧めます。」とありますが、これから語ることが重要であるというのです。「私は言明し勧めます」と強調しています。そして、「主にあって」とこれが主との関係のゆえに、今から語ることは神が言われることだと言います。四つあります。

(1) むなしい心をもって歩んではいけない 17b

これは私たちの心の状態です。「歩む」とは生き方を現わすことばとして、聖書では使われています。どのような心をもって歩んでいるのか。「もはや」とは、以前の歩みをやめなさい、もうその歩みをやめたのだから、と強くいいます。「むなしい心で」、もはや、むなしい心で歩んではいけない、それは異邦人がしていることだから、と言うのです。エペソという町はこの当時、ローマの植民地ながら、小アジアの中でも商業・文化の中心で大きな都市でした。町の中心にアルテミスの神殿があり、道徳的に退廃し不法と不品行がはびこっていたのです。そのような町の中でパウロは特に強く「むなしい」と感じたのでしょうか。「むなしい」とは決して成功することがない、願っていることに達しない、目標に到達できない、何の成果ももたらさない、ということです。むなしい思いの中で人生の目標を見いだし得ないのです。伝道者の書 1：2 には、ソロモンが「すべては空」と言っています。しかし 12：13 では、神を知り神を恐れることが人間にとってすべてだと言います。また、ローマ 1：21 には、神を知っているながら認めようとしない、生まれながらの人間の姿が書かれています。愚かさのゆえに真理を認めようとしないのです。永遠でないものに抛り頼むのです。

しかし、イエス・キリストによって救われ新しくされた私たちは、それにふさわしく、永遠に目を留めて歩みなさいとパウロは言います。

(2) 盲目のうちに生きてはいけない 18a

「知性において暗くなり」、これは継続してそうなのです。「暗くされ」はサタンによってです(2 コリント 4：3-4「…この世の神が不信者の思いをくらませて、」)。ローマ 1：22 には「彼らは、自分では知者であるといいながら、愚かな者となり」とありますが、サタンが彼らの霊的な目を閉ざしているからです。神は自然を通して、良心によって、ご自身を現わされています。罪に満ちた欲望に支配されることはもうやめなさいと。

(3) 神のいのちから切り離されたように歩むのはやめなさい 18b, c

「遠く離れて」は切り離される、かけ離れる、他人である、よそ者である、という意味です。「神のいのち」とは永遠のいのちです。それにふさわしい生き方をしなさいと。「私たちの無知、私たちのかたくなさ」が原因でそれができないのです。「彼らのうちにある無知」、「うちにある」は私たちが生まれつき持っている心の態度です。「無知」とは知ることができない、情報がいないことです。「かたくなさ」とは、

この当時の医学用語で、骨折を助ける石灰が固くなっている状態、また、関節が固くなることです。麻痺してしまうのです。欲望に凝り固まってしまう状態です。

(4) 自らの欲望を満たそうとして生きてはいけない 19 節

「道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行ないをむさぼるようになっていきます。」と、これは神から離れた者の典型的な例です。それは「道徳的に無感覚となった」ことが原因なのです。「無感覚」とは、足にできるタコのように、全く感じることはないのです。罪に対して何の感じる場所もない、鈍い、痛みがない、のです。その結果が、「好色に身をゆだね」「不潔な行ないをむさぼる」ことになるのです。むさぼりとともに、あらゆる不潔な行ないをするために、好色に身をゆだねた、というのです。

しかし、神は恵みによって留めてくださいます。聖霊の働きによって、また、教会の働きが人を最後のところまで行き着かせないのです。このために、教会はこの世に置かれているともいえます。

そして、20 節、「しかし、あなたがたはキリストのことを、このようには学びませんでした。」とあります。もうすでに変えられたのだから、新しい歩みをするように、古い歩みをさせようとする古い着物を脱ぎ捨てなさい、とパウロは私たちに神からの命令を告げるのです。

来週は、救われた者として新しい歩みをするための、肯定的な面を学んでゆきましょう。